

# 2017年度 活動報告書

〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-21-12-103

電話:03-5937-4040 FAX:03-5937-4043

WEB: http://www.janpplus.jp E-mail: info@janpplus.jp

## 目 次

## 

JaNP+の活動目的とミッション	• • • • • •	2
HIV 陽性者スピーカー派遣	• • • • • •	4
HIV 陽性者交流会	• • • • • •	8
研修	• • • • • •	11
調査・研究	• • • • • •	13
日本エイズ学会学会参加支援	• • • • • •	15
国際ネットワーク	• • • • • •	16
メディア対応	• • • • • •	17
アドボカシー	• • • • • •	18
イベント	• • • • • •	20
広報	• • • • • •	22
魯付・助成		23

## 活動目的とミッション

### JaNP+の活動目的

HIV陽性者が秘密を抱えることもなく、社会的な不利益を受けることもなく、 HIV陽性者として、自立したあたりまえの生活ができる社会を目指します。

### JaNP+の3つのミッション

## ネットワーク

国内外のHIV陽性者や 様々な関係者がつながり 交流と意見交換を行う

人と人のつながりを通して より多くの HIV 陽性者に 情報を届けることができます





より多くの HIV 陽性者が 連携することで より大きな声へと変わります

## 情報提供

医療・福祉・保健・政治などの情報をH I V陽性者の視点で伝える

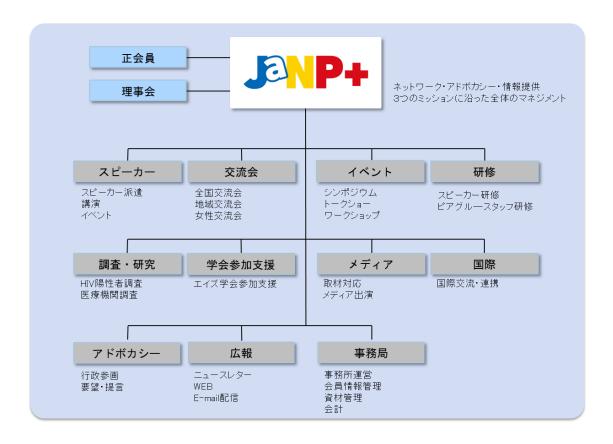


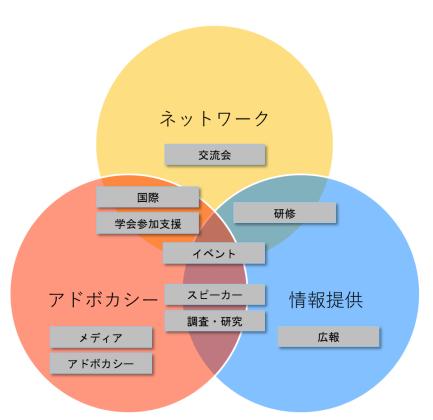
## アドボカシー

HIV陽性者の不利益や 差別や偏見をなくすよう 社会に働きかける

客観的な状況把握にもとづいて 社会への働きかけを行っています

## 3つのミッションと各プロジェクト





# HIV陽性者スピーカー派遣

HIV・エイズに対する偏見へのおそれから、HIV 陽性者が自身の感染の事実を周囲の人に伝えることはハードルが高く、慎重にならざるを得ません。当事者からすれば「言わなければ分からない」ので、伝えなければならない相手や状況も限られます。

しかし、HIV 陽性者と実際に対面したり、話しを聞いたりする機会がなければ、多くの人々にとって HIV・エイズは「他人事」のままです。このままでは、HIV・エイズに対する恐怖や不安などの過剰なネガティブ・イメージは変わらず、偏見や差別の問題はいつまでも解消されないという悪循環が続くことになります。

実際、HIV 陽性者の中には、自分のできる範囲で身近な人たちに HIV 陽性であることを 伝えている人も少なくありません。そして伝えられた人は、その時点で初めて HIV を「身 近な問題」として認識し、自分が抱いていた従来の HIV・エイズや HIV 陽性者に対するイメージが変わるきっかけを得ています。

こうした小さなカミングアウトを積み重ね、リアリティを広げていく取り組みが、HIV 陽性者スピーカー派遣活動です。自身が HIV 陽性者であることをオープンにできる人は決して多くありませんが、JaNP+のスピーカーは、テレビや新聞などのメディアだけでなく、講演会や研修会、少人数の集まり等を通じて、全国各地で等身大の語りを提供しています。

## 派遣実績

2017年度は、計32件の派遣依頼に応じ、 計8名のHIV陽性者をスピーカーとして派 遣しました。

#### <聴講者の述べ人数>

2,343 名	(メディア除く)	

#### <依頼主の属性> (件)

NGO, NPO	10
医療機関	7
企業	5
教育機関	4
行政	4
メディア・その他	2

#### <都道府県> (件)

~	(14)	
岩手		1
長野		1
山梨		1
千葉		1
東京		11
神奈川		3
愛知		2
大阪		2
兵庫		1
広島		2
徳島		1
福岡		1
鹿児島		1
全国(メデ	ィア等)	4

## <聴講者の属性> (件/重複あり)

医療職	14
保健所職員	7
心理職	6
行政職員	7

NGO, NPO	6
学生	9
教員	7
HIV 陽性者	5
一般市民、その他	16

## <派遣実績詳細>

日付	依頼主体	催事名
5月28日	NPO 法人 Rin かごしま	エイズの「今・未来」を考える
6月14日	広島大学病院	第33回看護師のための
		エイズ診療従事者研修
6月16日	神奈川県立保健福祉大学	授業(医療福祉論)でのスピーチ
6月16日	公益財団法人エイズ予防財団	平成 29 年度 HIV/エイズ基礎研修会
6月22日	認定特定非営利活動法人シェア=	JICA 青年海外協力隊
	国際保健協力市民の会(SHARE)	エイズ対策集合研修
7月4日	千葉科学大学看護学部	易感染状態にある患者の看護
		-HIV 感染者の生活- (当事者参加型授業)
7月5日	広島大学病院	第 34 回
		看護師のためのエイズ診療従事者研修
7月15日	特定非営利活動法人	第 25 期 AIDS ボランティア学校
	AIDS ネットワーク横浜	電話相談員養成講座
8月4日	神奈川県	第 24 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜
8月15日	株式会社 InterFM897	Love On Music
9月5日	独立行政法人国立病院機構	HIV/AIDS 看護師研修 初心者コース
	大阪医療センター	
10月5日	東京大学教養教育高度化機構	全学自由研究ゼミ
	国際連携部門	「国連とインクルージョン」
10月10日	特定非営利活動法人	エイズ&ソサエティ研究会議フォーラム
	エイズ&ソサエティ研究会議	
10月13日	一般社団法人	第 30 回人権啓発東京講座
	部落解放・人権研究所	
10月18日	ヴィーブヘルスケア株式会社	第 3 回 Viiv Webinar
10月18日	徳島大学病院	院内感染対策研修会
11月5日	smART 応需	第12回 抗 HIV 薬のスマートな応需
		のための連携学習会
11月6日	独立行政法人国立病院機構	HIV/AIDS 看護師研修 初心者コース

	大阪医療センター	
11月25日	ヴィーブヘルスケア株式会社	第 31 回日本エイズ学会学術集会
		ランチョンセミナー
11月26日	鳥居薬品株式会社	第 31 回日本エイズ学会学術集会
		ランチョンセミナー
12月1日	連合愛知安全衛生センター	安全衛生センター
		「2017 エイズデーフォーラム」
12月3日	陸前高田市	AIDS 文化フォーラム in 陸前高田
12月3日	カトリック中央協議会	第 23 回 世界 AIDS・DAY 記念礼拝
	HIV/AIDS デスク	
12月4日	山梨県福祉保健部健康増進課	平成 29 年度エイズ知識普及啓発講習会
12月6日	株式会社 BLUE	HIV 検査啓発動画制作
1月12日	一般社団法人	第 32 回人権啓発研究集会
	部落解放・人権研究所	
1月23日	名古屋市健康福祉局	養護教員を対象としたシンポジウム
	健康部保健医療課	
2月7日	特定非営利活動法人	『NPO のひろば』
	日本 NPO センター	
2月7日	認定特定非営利活動法人シェア=	JICA 青年海外協力隊
	国際保健協力市民の会(SHARE)	エイズ対策集合研修
2月16日	NPO 法人 akta	デリバリーボーイズ
		ボランティア研修会
2月28日	公立大学法人長野大学	教職員研修会
3月4日	smART 応需	第14回 抗 HIV 薬のスマートな応需
		のための連携学習会

## **POSITIVE TALK 2017**

第31回日本エイズ学会では、HIV陽性者によるスピーチプログラム「POSITIVE TALK」が企画され、JaNP+では演者の募集や選考、当日の進行等の運営に協力しました。このプログラムには8名の応募があり、5名が学会場で HIV 陽性者としての経験やメッセージを語りました。

## 今後に向けて

別頁にて報告のとおり、スピーカー研修を履修した HIV 陽性者 7名が新たにスピーカーとして登録しており、さっそく活動に参加しています。

今後も本事業を継続するとともに、より一層の派遣機会の拡大に努めます。

## HIV陽性者交流会

JaNP+は、HIV 陽性者のネットワークづくりを応援しています。HIV 陽性であることをオープンにしづらい日常生活において、他の陽性者と知り合う機会を自ら作りだすことは困難です。特に東京以外の地域では、その傾向は強くなります。このため JaNP+では、交流会の自主開催や地域の当事者グループへの支援を通じて、一定の安全性が確保されたHIV 陽性者どうしの交流機会の提供に取り組んでいます。

### 開催実績

2017年度は、下記のとおり交流会を開催しました。なお、JaNP+女子会については東京都エイズ啓発拠点事業として実施しました。

#### <JaNP+主催の交流会>

● HIV 陽性者交流会 ··· HIV 陽性者限定の交流会

● ジャンプ!交流会 … HIV 陽性者および JaNP+会員による交流会

● JaNP+女子会 … HIV 陽性の女性限定の交流会

#### <開催実績詳細>

日付	催事名	開催地	参加者数
5月13日	ジャンプ!交流会	東京	5
5月20日	Not Alone Fukuoka 交流会(共催)	福岡	8
7月1日	ジャンプ!交流会	東京	14
7月2日	HIV 陽性者交流会	広島	5
7月15日	Not Alone Fukuoka 交流会(共催)	福岡	7
10月21日	HIV 陽性者交流会	仙台	10
10月22日	HIV 陽性者交流会	広島	4
10月30日	ジャンプ!交流会	東京	15
11月18日	JaNP+女子会	東京	6
11月18日	Not Alone Fukuoka 交流会(共催)	福岡	5
12月16日	Not Alone Fukuoka 交流会(共催)	福岡	5
1月6日	ジャンプ!交流会	東京	10
1月20日	Not Alone Fukuoka 交流会(共催)	福岡	8
2月24日	HIV 陽性者交流会	広島	12

3月17日	HIV 陽性者交流会	高松	6
3月17日	Not Alone Fukuoka 交流会(共催)	福岡	6
3月31日	HIV 陽性者交流会	仙台	8
3月31日	Not Alone Fukuoka 交流会(共催)	熊本	5
4月21日	ジャンプ!交流会	東京	7
のべ参加者数		146	

※参加者数はスタッフを含む

### HIV陽性者交流会スタッフによる情報交換

第 31 回日本エイズ学会の開催にあわせ、全国各地で HIV 陽性者のピアグループ活動を 運営する HIV 陽性者スタッフ 10 名が集い、交流会活動に関する情報交換会を開催しました。下記のテーマを中心に、現在行っている取り組みやノウハウ、地域・グループによる特色、抱えている課題などを共有し、相互にアドバイスや意見交換を行いました。

### <テーマ>

運営スタッフの育成、HIV 陽性者への広報、予算の確保、適切な開催頻度 新規参加者への対応、参加者が話しやすくなるための工夫 よくある話題、トラブルへの備え、終了後の食事会(二次会)への対応 勉強会や学習会のニーズ有無、地域での啓発など交流会以外の活動との関わり スタッフのモチベーションや苦労 など

JaNP+ニュースレター35号に参加者によるレポートを掲載していますので、あわせてご参照ください。なお、本事業は「アステラス・スターライトパートナー患者会助成」の支援により実施することができました。

また、JaNP+では各地域でピアグループ活動に携わる HIV 陽性者スタッフの皆さんに は専用のメーリングリストにもご参加いただき、それぞれの交流会の開催報告を中心とした継続的な情報交換の場を提供しています。

### 今後に向けて

2017年度は、東北(仙台)および四国(高松)の各地域で初めてのHIV陽性者交流会を開催することができました。これにより、日本の各地域に1つはHIV陽性者の交流の場があるという状況を達成することができました。エイズ治療拠点病院をはじめ関係者の皆様には広報等にご協力いただき、あらためて御礼を申し上げます。

また、2016 年度に実施したピアグループスタッフ研修の履修者も、交流会スタッフとして新たに参加しており、地域を越えた交流の広がりを実現できるようになりつつあります。予算状況が厳しい中、将来的には地元や近県の当事者がスタッフを担えるようになればと考えております。今後も、これまで培ってきたネットワークを活かし、地域を越えて連携しながら、各地のピアグループの基盤づくりに取り組んでまいります。

JaNP+はその名称のとおり、地域を問わず日本全国を対象に活動しています。しかし、匿名性が高く支援やネットワークが比較的豊富な大都市圏と比べ、それ以外の地域では実際の当事者による活動に触れる機会そのものがあまり多くありません。

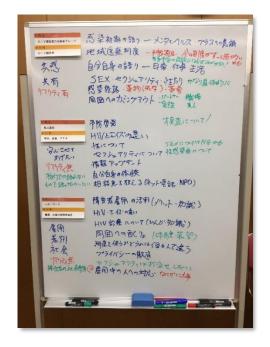
こうした現状をふまえ、HIV 陽性者の立場で活動する上で必要となる知識やノウハウを 獲得する機会を提供するため、JaNP+は独自の研修プログラムを開発、実施しています。

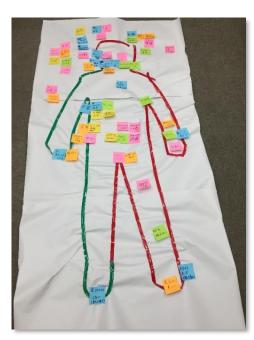
### HIV陽性者スピーカー研修

HIV 陽性者スピーカー活動(別頁の報告参照)に関心と意欲のある HIV 陽性者を対象としたトレーニングプログラムを実施しました。この研修では、HIV 陽性者として人前で話すために必要となる様々な要素(多様性への理解、心構え、スピーチスキルなど)について、参加者が自らじっくりと考え、準備性を獲得することを目的としています。

通算 12 回目となる 2017 年度の研修には 11 名の応募があり、北海道、宮城、東京、高知、福岡、沖縄と全国各地から 8 名が参加しました。また、履修者のうち 7 名が HIV 陽性者スピーカーとして JaNP+に登録しており、今後の活躍が期待されます。

なお、本事業はヤンセンファーマ株式会社の支援により実施することができました。





研修の様子 ①

#### <開催概要>

日時 2017年10月28日(土)~10月29日(日)

場所 東京都内

研修内容 ワークショップ、模擬スピーチ等

旅費助成 参加者には、交通費・旅費の一部助成として下記の金額を支給しました。

なお、研修参加費は無料です。

・ 東京・千葉・埼玉・神奈川在住者 なし

・ 北海道・四国・九州在住者 3万円

上記以外2万円

参加要件 ・ HIV 陽性告知を受けてから1年以上が経過していること。

・ 今後、HIV 陽性者スピーカーとして活動したいという意欲があること。 (すでに活動を行ったことのある方も参加可能です)

・ 医療機関に定期的に通院していて、自分の健康状態を把握していること。

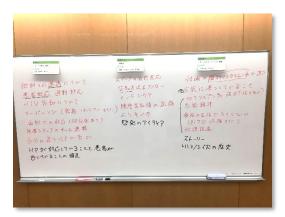
他の陽性者や当事者団体・支援団体とつながりを持っていること。

・ 研修後に所定のレポートを提出すること。

この研修会のすべてのスケジュールに参加できること。

・ 研修所定のグランド・ルールを遵守すること。





研修の様子 ②

## 調査·研究

当事者の立場で様々な活動を行うためには、その裏付けとなる HIV 陽性者の現状やニーズを論理的・客観的に把握する必要があります。JaNP+では、ミッションに照らして重要な調査や研究については、積極的に参加・協力しています。

## HIV Futures Japan プロジェクトへの参加協力

HIV Futures Japan プロジェクトは、HIV 陽性者の「自分らしくより健康的な生活の 実現」と「暮らしやすい社会環境づくり」を目的とした当事者参加型です。



HIV 陽性者を対象とした WEB アンケート URL http://survey.futures-japan.jp/

HIV 陽性者のためのポータルサイト運営 URL http://futures-japan.jp/

このプロジェクトには、全国各地から HIV 陽性者が参加する「レファレンスグループ」が設置されており、調査の実施やサイト運営について当事者の意見を積極的に取り入れています。JaNP+は、これまでの活動によって培ったネットワークをもとに、レファレンスグループの運営に協力しています。また、代表理事の高久はプロジェクト全体の意思決定を担うステアリンググループのメンバーとして参加しています。

2017年度は、第2回目となるWEBアンケート調査(実施期間2016年12月25日~2017年6月25日)の結果をもとにレファレンスグループで議論を行い、より詳しい分析や調査結果をもとにした提言・要望のポイント、次回の調査に向けた意見などについて、活発に話し合いました。

#### <活動実績>

日付	内容
5月31日	ステアリング会議
9月8日	研究者会議
9月30日	レファレンス会議

## その他の研究協力

2017年度は、厚生労働省エイズ対策政策研究事業「MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」(研究代表者:金子典代)に、研究協力者として JaNP+の高久が参加しました。同研究班では、HIV の予防啓発および検査促進の取り組みに HIV 陽性者の経験を活かせるような研究を計画しており、引き続き参加協力する予定です。

## 日本エイズ学会参加支援

医療のみならず予防や検査、人権啓発などエイズ対策の様々な場面において、当事者である HIV 陽性者の経験や声を活かしていくことが重要です。また私たち自身も、学会で示される新たな知見を学び、地域や立場を越えたネットワークを持つことは、より良い活動につながります。このため JaNP+では、各地域で HIV 陽性者の立場で活動する人たちを対象に、学会の参加を支援する取り組みを行っています。

## 第31回日本エイズ学会へのHIV陽性者参加支援

2017 年度は、全国各地で HIV 陽性者のピアグループ活動を運営する HIV 陽性者スタッフを対象に、2017 年 11 月 24 日~26 日に東京で開催された第 31 回日本エイズ学会への参加支援を実施し、4 名に参加費用の助成を行いました。また別頁にて報告のとおり、この機会にあわせて、交流会活動に関する情報交換会も実施しました。

なお、本事業は「アステラス・スターライトパートナー患者会助成」の支援により実施することができました。また、同学会の会長・生島嗣氏のご厚意により、本事業により参加する HIV 陽性者に対し、学会参加証(一人 10,000 円相当)をご提供いただきました。

## 今後に向けて

2018 年度は、2018 年 12 月 2 日~4 日に大阪にて第 32 回日本エイズ学会が開催されます。JaNP+では引き続き、HIV 陽性者の立場で活動する各地のメンバーを対象に参加支援を実施する予定です。

# 国際ネットワーク活動

エイズはマラリア、結核と並んで世界三大感染症と呼ばれ、「HIV 陽性者があたりまえに生きることのできる社会」の実現は、日本だけでなく世界の HIV 陽性者にも共通する目的です。世界的な不況が長引く中、日本のみならず諸外国においてもエイズ対策への資金提供や予算確保が厳しい状況にありますが、国の枠組みを超えた共通課題に対しては、引き続き協力体制を築いていくことが必要です。

この観点から、JaNP+では国外のエイズ関連団体とのネットワークを重視し、国際会議等にも参加しています。

## 主要国におけるHIV陽性者の入国規制に関する情報提供

HIV 陽性者が抱えている不安の一つに、海外への渡航に際する入国の可否があります。 そこで、英語で提供されているウェブサイト "HIV Travel"の情報をもとに、日本と往来 の多い主要な国々について和訳し、リストとしてウェブサイトにアップしています。

残念ながら、国によっては法律上の規制と運用の実態が異なる場合もあり、このリストのみをもって入国できるかどうかを判断しにくいこともありますが、少なくとも当事者が渡航を判断する際の参考になるよう、情報提供をしています。また、HIVに対する差別や偏見の現状を知って頂くきっかけにもなるでしょう。

年に数件ですが、HIV 陽性者や医療機関から、こうした入国規制に関するご相談が寄せられています。

URL : http://www.janpplus.jp/project/international\_network

#### 国外団体との交流

#### <活動実績>

日付	内容
2月21日	国連エイズ合同計画 (UNAIDS) 事務局長のミッシェル・シディベ氏来日
	ねぎし内科診療所にて交流
3月22日	韓国の HIV 予防啓発団体 iSHAP メンバー来日
	コミュニティセンターakta にて交流

## メディア対応

JaNP+には様々なメディアからの取材依頼があります。HIV・エイズに関する報道は、HIV/AIDS および HIV 陽性者に対する差別や偏見と密接に関わり、ときにマスメディアを通じて取り上げられることが、当事者である私たちにとって必ずしも有益であるとは限りませんが、「エイズ・パニック」の時代と比べ HIV/AIDS に関する報道は少なくなった現在では、行政や民間の活動では情報が届かない人々にもメッセージを伝える機会として、重要な啓発の機会であるといえます。

### メディア出演・取材実績

今年度は、以下の各メディアにおいて、 HIV 陽性の当事者の声や JaNP+の活動に ついて取り上げていただきました。

また、第 31 回日本エイズ学会および TOKYO AIDS WEEKS 2017 の開催について、2017年11月1日、日本記者クラブにて記者会見が行われ、NPO 法人ぷれいす東京の生島嗣氏とともに JaNP+の高久が登壇しました。会見では各イベントの紹介とあわせて、HIV 感染症の最新の話題や、日本のエイズ対策の現状と課題についても話題提供を行いました。



2017年11月1日、日本記者クラブ

#### <活動実績>

日付	媒体名	
7月26日	「東京新聞」取材	
6月12日	雑誌「AERA」に取材記事掲載	
8月15日	ラジオ番組「Love on Music」出演	
9月23日	NHK 松山放送局と面談	
11月1日	日本記者クラブにて記者会見	
12月1日	日本テレビ系ネット配信番組「the SOCIAL」配信	
12月14日	雑誌「週刊新潮」に取材記事掲載	

## アドボカシー

JaNP+は、HIV 陽性者の権利擁護と行政等への参加・意見反映といった観点から、HIV 陽性者のエイズ対策へのより広範な関与(GIPA: Greater Involvement of PLWHA)を活動の柱としています。広い意味では、JaNP+の活動全体がアドボカシーにつながるものですが、ここでは特に政府および行政への働きかけや協働についてご報告します。

## 厚生労働省への要望書提出

現在では、早期に治療を開始することが HIV 感染者の予後にとって良いばかりでなく、他者への感染リスクを抑止することにもつながることが証明されています。しかし、現行のヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害に係る認定基準では、CD4 が500以上、RNA ウイルス量が5000未満の場合は身体障害認定が難しく、早期に治療を始めることが困難です。

この問題について、JaNP+では、NPO法人ぷれいす東京との連名により 2017 年 7月 13日付で厚生労働省に要望書を提出し、認定基準の見直しを求めました。要望書はWEBサイトで公開しています。



左から JaNP+・高久、厚生労働副大臣・古屋範子氏、 ぷれいす東京・生島氏

### 差別事例の情報収集およびサポート

HIV 陽性であることを理由とする差別事例や、HIV 陽性者に対する不当な扱いやについて、2017年度は4件の情報提供がありました。こうした報告や報道・裁判等に至るケースは、あくまで氷山の一角であり、交流会活動においても多くの差別事例を伺っています。

お知らせいただいた当事者には、必要に応じ支援者の紹介等のサポートを行っていますが、当事者としては「これ以上は関わりたくない」という精神状態であることが多く、泣き寝入りに終わってしまうのが実情です。

#### <活動実績>

日付	媒体名
6月	歯科における診療拒否
8月	歯科における診療拒否
1月	医療機関における不当解雇
1月	刑務所における検査・治療の提供不備 (エイズ発症)

## その他のアドボカシー活動

#### <活動実績>

日付	媒体名	
8月10日	ヴィーブヘルスケア株式会社の看板広告アドバイザーとして会議に出席	
8月30日	東京都エイズ啓発ポスターの審査員として選考会議に出席	
11月~	日本エイズ学会の代議員に就任(任期~2019年 11月)	
1月13日	一般社団法人部落解放・人権研究所の差別禁止法研究会にメンバーとして	
	出席	
1月30日	東京都エイズ専門家会議に委員として出席	
3月27日	一般社団法人部落解放・人権研究所の「被差別マイノリティのいま 差別	
	禁止法を求める当事者の声」出版報告&交流集会に出席	



これまでにご報告した活動の他、JaNP+では不定期にイベントを企画・開催しています。

## トークイベント「どうなる?どうする?ゲイとHIV」

性の多様性を考える上では、セクシャリティやジェンダーだけでなく「セックス」について考えることもまた重要です。多くの LGBT 関連イベントが同時開催される「東京レインボーウィーク」(東京レインボープライド主催)の参加イベントとして、セックスと社会が否応なくつながる HIV/AIDS をテーマとしたトークイベントを開催しました。

なお、本イベントの開催にあたっては、新宿二丁目の AiSOTOPE LOUNGE より会場を 無償にてご提供いただきました(ドリンク代を除く)。

#### <開催概要>

日時	2017年5月3日 (水・祝) 13:30~16:30	
会場	AiSOTOPE LOUNGE	
演者	岩橋恒太氏(NPO 法人 akta)、石坂わたる氏(中野区議会議員)	
	高久陽介(JaNP+・MC)	
入場料	1,000 円・1drink つき	
来場者数	20 名(スタッフ除く)	

## **TOKYO AIDS WEEKS 2017**

第 31 回日本エイズ学会と同時に東京都中野区で開催された市民啓発イベント「TOKYO AIDS WEEKS 2017」にて、HIV Futures Japan プロジェクトと共催で「HIV Futures Japan 第 2 回調査結果報告会」を実施しました。

なお、本イベントの開催にあたっては、TOKYO AIDS WEEKS 2017 実行委員会より会場を無償にてご提供いただきました(ドリンク代を除く)。

### <開催概要>

日時	2017年11月26日(日)15:30~17:30	
会場	中野区産業振興センター	
演者	井上洋士氏(HIV Futures Japan プロジェクト・放送大学)	
	高久陽介(JaNP+)	
入場料	無料	
来場者数	40 名(スタッフ除く)	

### ニュースレターの発行

ニュースレター第32号~第35号を制作、発行しました。

ニュースレターは 5000 部を発行し、全国のエイズ治療拠点や NGO、各種会員等に広く 配布しています。また、WEB サイト上でも読むことができます。

2017年度は、ヴィーブヘルスケア株式会社による企業広告掲載のほか、前年度に続き公益財団法人エイズ予防財団の助成を受けて、ニュースレターを制作・発行することができました。2018年度も、引き続き HIV 陽性者とその周囲の方々に向けた情報誌として発行を継続していきます。



#### WEBサイト・SNSの運営

おもに JaNP+の活動案内や交流会などの告知を掲載するオフィシャルサイトを運営しています。また、Twitter および Facebook でも、活動に関する広報や情報提供等を行っています。

## 寄付·助成

2017年度も、様々な企業・団体・個人の皆様より寄付および助成をいただきました。おかげさまで、ご報告させていただきました通り様々な活動を実施することができました。あらためまして、ご支援をいただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

#### <年間活動への寄付>

ヴィーブヘルスケア株式会社、鳥居薬品株式会社

ファイザー株式会社、MSD 株式会社、中外製薬株式会社

※個人の方からのご寄付については、プライバシー保護のためお名前の掲載を控えさせていただきます。

#### <特定事業への助成>

助成元	対象プログラム
エイズ予防財団助成事業	エイズ患者・HIV 感染者向け情報誌発行事業
ヤンセンファーマ株式会社	HIV 陽性者スピーカー研修
アステラス・スターライト	第 31 回日本エイズ学会参加支援&情報交換会
パートナー患者会助成	